

第12回 「Johns Hopkins 大学に留学して」

2015年11月

私は2013年、アメリカ、メリーランド州ボルチモアにある Johns Hopkins 大学に留学し、研究生生活を送っておりました。Johns Hopkins 大学はボルチモアの実業家 Johns Hopkins の遺産を基に、1876年に世界初の研究大学院大学として設立され、1889年に病院、1893年に医学部が設立された、アメリカの中では歴史ある大学のひとつです。Johns Hopkins Hospital は「U.S. News & World Report」のランキングで計22回、全米 No.1 hospital の称号を得ています。前立腺癌は、アメリカでは男性の癌の罹患率1位、死亡率は肺癌について2位の重大な癌となっており、研究予算も大きく割り当てられています。私の研究テーマは、前立腺がんの転移に関わる蛋白 (SPARCL1) の機能解析で、その内容については Cancer Research 誌に「Androgen Regulated SPARCL1 in the Tumor Microenvironment Inhibits Metastatic Progression」として掲載されていますので、興味のある方はご覧になってください。

研究室の様子ですが、アメリカの研究室は複数の研究室がフロア・機械を共有し、仕切りもあまりなく、情報交換も盛んに行われます。セミナーやカンファレンスも基礎研究、臨床研究ともに非常に多くあります。Johns Hopkins 大学の泌尿器科レジデントは非常にレベルが高く、優秀でしかも協調性のある人が貪欲に学び、自らの研究に活かそうと頑張っているのに感心させられます。自分が発表の当番に当たるときは、語学力がない、ただでさえ大変なのに、質疑応答が鋭く、その日はくたくたになってしまいました。

私にとって留学してよかったと思うことの一つは、日本という国の素晴らしさを再認識できたことです。やはり向こうでは日本人＝信頼できる真面目な人という認識です。自動車もほとんどが信頼できる日本車です。現在の日本では、世界中の様々な研究試薬や情報が比較的簡単に手に入り、研究設備もアメリカに引けをとらない立派なものがたくさんあります。なので、海外留学しなければ出来ない研究というのは今や少ないのかもしれませんが。しかしながら、世界中の異なる国から来た、異なる文化を持つ人たちと一緒に研究や生活を共にすることは、刺激的でとても有意義な経験です。これから留学の機会がある方は、是非思い切って海外に飛び出してみましょう。語学はその環境に放り込まれば、なんとかなるものです。(しかし、渡米してすぐの間は、みんな英会話教師のようにゆっくりとは喋ってくれないですし、はっきり発音してくれないので、ちんぷんかんぷんです。)

私は故郷白浜町を飛び出し、京都、大阪、アメリカと転々としてきましたが、これまで培ってきた医師としての技量、知識、経験を日々の診療に活かしながら、これからもどんどん新しい知識を吸収し、病気で困っている人たちに質の高い医療を提供できるように努力していくことが、自分の使命かなと思っています。

(木村)

